

21	西尾	西尾市立矢田小学校	オカヤス ナツキ 名前 岡 安 菜 月
分科会番号	8	分科会名	音楽教育

研究題目

学ぶ楽しさを実感する子の育成
～小学2年音楽科「だがつき パーティーへ ようこそ
－いろいろな がっきの 音を さがそう－」の実践を通して～

研究要項

I 主題設定の理由

本学級の児童は、楽器を演奏することに意欲的である。1学期に「かえるの合唱」を鍵盤ハーモニカで演奏した際には、クラス全体での輪奏に挑戦し、順番を交代しながら、何度も演奏を楽しんだ。また、「本当にかえるが鳴いているみたい」「ずれてるのがおもしろいよ」など、友達の演奏を聴き、口々に感想をつぶやいていた。

このように、同じ楽器を用いての友達との演奏を楽しんだ本学級の児童に、別の楽器の音色を聴いたり、自分の出す音だけでなく、相手の出す音をしっかりと聴き、音楽を通して友達と関わったりすることをもっと楽しんでほしいと考えた。それにより、音楽科の学習における、「分かった」「できた」を伴う「学ぶ楽しさ」をより実感することができるだろう。そのためには、題材について興味・関心をもち、気付いたことに対して自分の考えをもったり、仲間との関わりの中で考えを深めたりしながら、「学んだことを表現する」経験を積むことが必要である。

楽器の音色を楽しみ、音を通して友達と関わるためには、さまざまな楽器の音色を聴き比べたり、実際に演奏したりする中で、自分のお気に入りの楽器を見つけ、それらを用いてペアやグループで協働的に音楽づくりを楽しむことのできる教材が適切であると考えた。そこで、本研究の主な教材として、「だがつきパーティー」「がっきでおはなし」の2つを扱うこととした。「だがつきパーティー」は、7種類の打楽器によるアンサンブル曲であり、打楽器の音色の変化を聴き取りやすく、打楽器の音色に対して興味・関心をもちやすい教材である。また、それぞれの打楽器がソロで演奏されたり、呼びかけとこたえで演奏されたり、重ねて演奏されたりするため、リズムの反復や変化などに気付きやすいだろう。「がっきでおはなし」は、お気に入りの打楽器を一つ見つけ、その楽器の音色に合ったリズムを探したり、見つけた音で友達と「おはなし」（呼びかけとこたえによる楽器での会話）をしたりする教材である。気に入った音を出すために奏法を工夫したり、友達と会話するという目標に向けて呼びかけとこたえを楽しんだりすることができるだろう。

以上の考えをもとに、本研究のテーマを上記のように設定し、研究に取り組んだ。

II 研究の方法

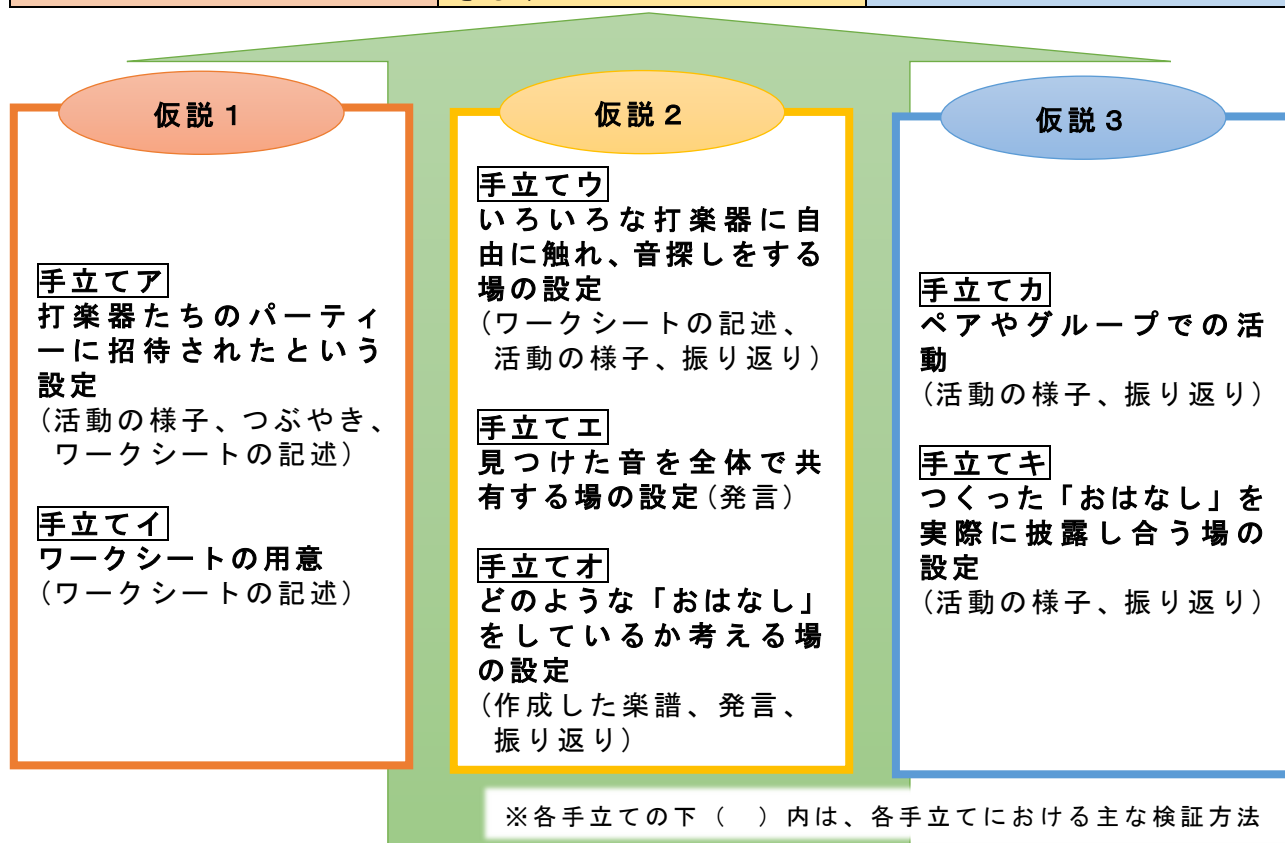
本研究にあたっては、次頁のように目指す子供像を設定し、以下のような仮説と手立てを考えた。学級全体の学びの様子と抽出児童Aの変容を追い、授業での様子や振り返りの記述などから手立ての有効性を検証していく。

(1) 研究の仮説

- 【仮説1】 打楽器たちのパーティーに招待されたという設定のもと、ワークシートを手がかりに鑑賞活動を行うことで、打楽器の音色に興味・関心をもち、打楽器たちと「おはなし」をしてみたいという思いをもつだろう。(子供像ア)
- 【仮説2】 いろいろな打楽器に自由に触れ、見つけた音を全体で共有したり、リズム譜をもとに考えたりすることで、どのような「おはなし」をしているか、自分なりの思いや考えをもつことができるだろう。(子供像イ)
- 【仮説3】 ペアやグループで考えた「おはなし」を披露し合う場に向けて、「おはなし」に合わせてリズムを選び、奏法を工夫することで、友達と互いの楽器の音を聴きながら、音楽づくりを楽しむことができるだろう。(子供像ウ)

(2) 研究構想図

目指す子供像		
子供像ア	子供像イ	子供像ウ
鑑賞活動を通して、打楽器の音色に興味・関心をもち、打楽器たちと「おはなし」をしてみたいという思いをもつ子	打楽器に自由に触れる活動を通して、さまざまな音色や奏法を見つけたり、リズムと言葉を結び付けながら、どのような「おはなし」をしているか、自分なりの思いや考えをもつことができる子	音楽づくりに対する自分なりの思いや意図をもとに、リズムをつなげる順番やリズムに合った奏法を工夫して、友達と互いの楽器の音を聴きながら、音楽づくりを楽しむ子



今の 子供の姿	・かえるの合唱の輪奏を通して、同じ楽器を用いての友達との演奏を楽しむことができた。 ・「本当にかえるが鳴いているみたい」「ずれてるのがおもしろいよ」など、友達の演奏を聴き、口々に感想をつぶやいていた。
--------------------	---

(3) 抽出児童Aについて

児童Aは、楽器に触れることが好きで、授業の中で楽器を取り扱う際には真っ先に準備をする。また、感じたことや考えたことを伝えたり、表現したりすることも好きで、1学期の「かくれんぼ」の学習では、「まあだだよ」と歌いながら机の陰に隠れるなど、友達と楽しみながら歌う姿が見られた。

このような実態をふまえ、児童Aに対し、次の三つのことを願う。

- 鑑賞活動を通して、さまざまな打楽器に興味・関心をもち、「打楽器を演奏したい」という思いをもってほしい。
- 見つけた打楽器の音色や教科書のリズム譜から、どのような「おはなし」をしているか考え、どのような「おはなし」にするか、自分なりの思いや意図をもってほしい。
- 思いや意図をもってリズムを選び、演奏の仕方を工夫しながら、友達との音楽づくりを楽しんでほしい。

Ⅲ 実践と考察

1 仮説1に対応して

(1) 打楽器たちのパーティーに行こう(手立てア、イ)

題材の始めに、児童が打楽器の音色や教材「だがつきパーティー」に興味・関心をもつきっかけとするために、打楽器たちのパーティーに招待されたという物語を設定した。本校の児童は入学時に学用品として1人ひとつ、カスタネットを購入している。そこで、児童にとって最も身近な打楽器であるカスタネットから招待状が届いたと、児童に示した(【資料1】)。招待状を見せると「わあ!」と歓声が上がり、児童は口々に「パーティーだ」「行きたい」とつぶやいた。また、全員で声に出して招待状を読むと、児童Aを含む多くの児童が道具箱の中からカスタネットを取り出そうとした。これらの姿から、児童の学習への期待が高まる様子が伺えた。

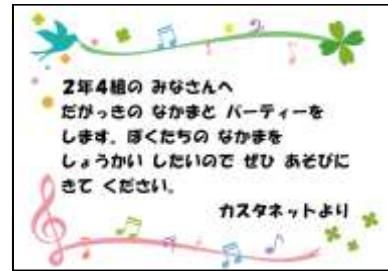
その後、教材「だがつきパーティー」の音源とパーティー会場のイラストを用いて教師が自作した映像をモニターに映し、鑑賞活動を行った。曲が流れ始めると、児童は音に耳を澄ませ、どんな楽器が出てきたか、予想を始めた。【資料2】はこのときの児童Aのワークシートの一部である。資料を見ると、7種類すべての楽器の名前を記しており、打楽器の音色に興味をもって曲を聴いていたことが分かる。ただし、資料中の「クラベス」においては、全体でどの楽器が出てきたかを確認した際の

【資料3】下線部の児童Aの発言から、このあとに書き足されたものであると考えられる。また、学級全体で確認する際、ただ楽器の写真を提示するのではなく、教師が自作したキャラクターに見立てた打楽器のイラスト

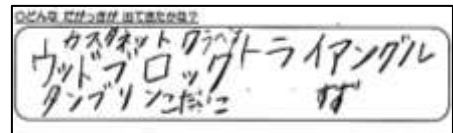
(【資料4】)を提示した。イラストを提示する度、「小太鼓さん」「トライアングルさん」と楽器に敬称をつけ、笑顔を見せる児童の姿から、物語の世界に入り込み、打楽器に興味をもっている様子が伺えた。

登場した楽器を全体で確認したあと、曲を聴きながら、打楽器が登場した順番をワークシートにメモする活動を行った。児童は「カスタネット?」「なんか増える?」などつぶやきながら、聴こえてきた楽器の名前を次々とワークシートに記入していった。【資料5】はこのときの児童Aのワークシートである。これらの姿やワークシートの記入から、児童が打楽器の音色に注目して聴こうとしていたことが分かる。

多くの児童が記入を終えたところで、先述の映像の打楽器の音色に合わせて、【資料4】の打楽器のイラストが現れる映像を用いて、再度鑑賞を行った。映像が流れ始めると、児童は「クラベスさんだ」「カスタネットさん、独り言だ」と楽器を確認しながら、思ったことをつぶやいた。児童Aも「ああ、ここは全員か」などとつぶやいていた。ひと通り聴き終えた児童に「パーティーで何をしていたんだろうね」と尋ねると、「話してる」と口々に答えた。児童Aも「話してるのが曲になってる」と答え、本時の振り返りでは「だがつきたちは話してる。なぜか」というと、音の高さをかえてしゃべってると思いました」と記述した(【資料6】)。これらの姿から、【資料5】のワークシートを用いて打楽器が出てくる順番を確認したことや、音色に合わせてイラストを提示したことが、児童が呼びかけとこたえの関係に注目する一助となったと考えられる。



【資料1】カスタネットさんからの招待状



【資料2】児童Aのワークシート

(最後のひとつが分からず静かになる児童)

T:これ、実はね、まだみんなに紹介したことがない人なんだ。じゃん。(クラベスのイラストを見せる)

C1:え?何?

C2:うわあ。

A:あ、こういう楽器知ってる。

T:この子、クラベスさんと言います。さんはい。

C:クラベス。

T:こんな音。(クラベスを鳴らす)

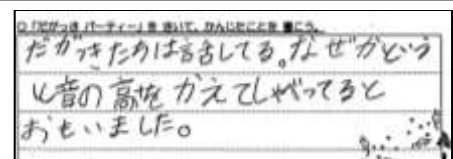
【資料3】最後のひとつの楽器を確認したときの教師と児童の会話の様子



【資料4】教師が自作した打楽器のイラスト



【資料5】児童Aのワークシート



【資料6】児童Aの振り返り

2 仮説2に対応して

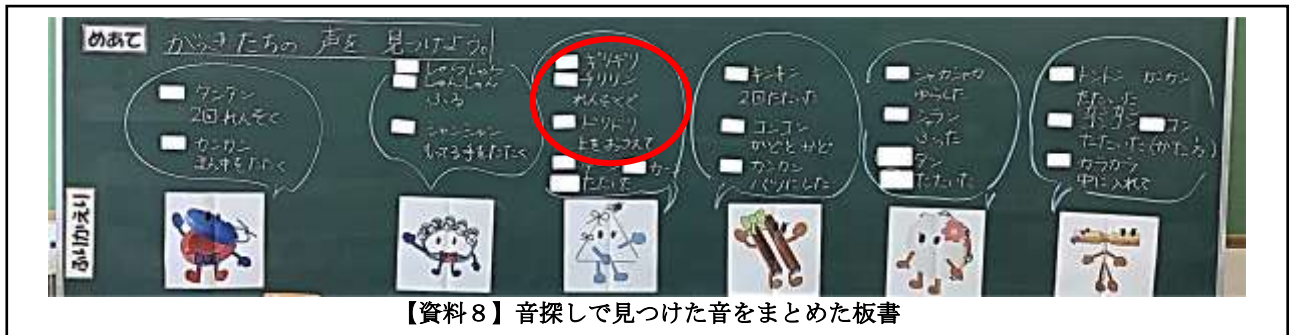
(1) 楽器たちの声を探そう(手立てウ、エ)

第1時での振り返りの際、次に何をしたいか児童に問うと、「パーティーに行ったら楽器たちと話したい」「何を話してるか考えたい」といった声が上がってきた。そこで、打楽器たちの声である音探しをすることにした。教材「だがつきパーティー」に登場した、「カスタネット」「トライアングル」「ウッドブロック」「タンブリン」「すず(低音・高音の2種類)」「クラベス」の6種類の楽器を用意し、児童が自由に手に取り、試すことができるようにした。児童は各々すぐに楽器を手にとると、楽器を耳元に近づけて音色を確認しながら、夢中になって音探しを始めた。始めは叩いて音色を楽しんでいる様子だったが、ある程度音色を見つけると、「クラベス」の打つ位置をずらしてみたり、「トライアングル」の金属部分を持って、響きを止めたりして、別の音色を探し始めた。このとき、楽器の名前、見つけた音(擬音語)、奏法を書き込めるワークシートを配付し、見つけた音色を記録できるようにした。【資料7】はそのときの児童Aのワークシートである。【資料7】中列の「がっき」の欄を見ると、6種類すべての楽器に挑戦し、音色を探していたことが分かる。また、四角の部分、「(トライアングルの)中をたたいたままにした」「(ウッドブロックの)左がわをたたいた」などの記述から、ただ叩くだけでなく、奏法を工夫していることが分かる。

楽器名	音	3/4拍子
カスタネット	クラベス	たたいた
トライアングル	タタ	たたいた
ウッドブロック	タタ	たたいた
タンブリン	タタ	たたいた
すず(低音)	タタ	たたいた
すず(高音)	タタ	たたいた

【資料7】児童Aのワークシート

個人で音探しをしたあと、見つけた音を全体で共有する場を設定した。【資料8】はそのときの板書である。児童Aは「青いすず(低音)を振ったらシャンシャンと聴こえました」と発言した。



【資料9】は【資料8】中の丸の部分、「トライアングル」の音色について、奏法による音色の違いを聴き比べているときの会話の様子である。児童C3が【資料9】波線部「押さえて左右に動かした」と発言した際、児童Aをはじめとする多くの児童が困惑の表情を浮かべた。このことから、多くの児童が、児童C3の発言に対して、児童C3がどのような奏法を行ったのか、思い浮かべることができていないと考えられた。そこで、実際に前に出て演奏するよう促し、合わせて似た奏法について先に発言していた児童C4にも隣で演奏するよう促した。すると、その様子を見ていた児童Aは【資料9】下線部のように、「紐を持ってる」と発言した。このことから、見つけた音を全体で共有し、聴き比べる場を設けたことで、奏法による音色の違いに児童が気付いたことが分かる。

第2時の最後に、お気に入りの楽器とその理由をワークシートに書く時間を設けた。【資料10】は児童Aのワークシートである。児童Aは「(すずの)リンリンと(いう)音がいい気持ちやたのしい気持ちになれたから」と記述している。このことから、自由に楽器を試したことで、気に入った音色を見つけ、それがお気に入りの楽器を決めることにつながったと分かる。

C3:「トライアングル」を押さえて左右に動かしたら、ドリドリという音がしました。
 T:今のどういうことか分かった?
 C:うーん。
 T:ちょっとC3さん、やってみて。
 (C3が金属部分を持ち、中を小刻みに複数回叩いて鳴らす)
 T:さっき、C4さん、チリリンって言ったじゃん。C4さんもやってみて。
 (C4が紐を持ち、中を小刻みに複数回叩いて鳴らす)
 T:音、一緒?
 C:ううん。
 T:何が変わった?
 C:鳴らし方。
 A:紐を持ってる!紐!

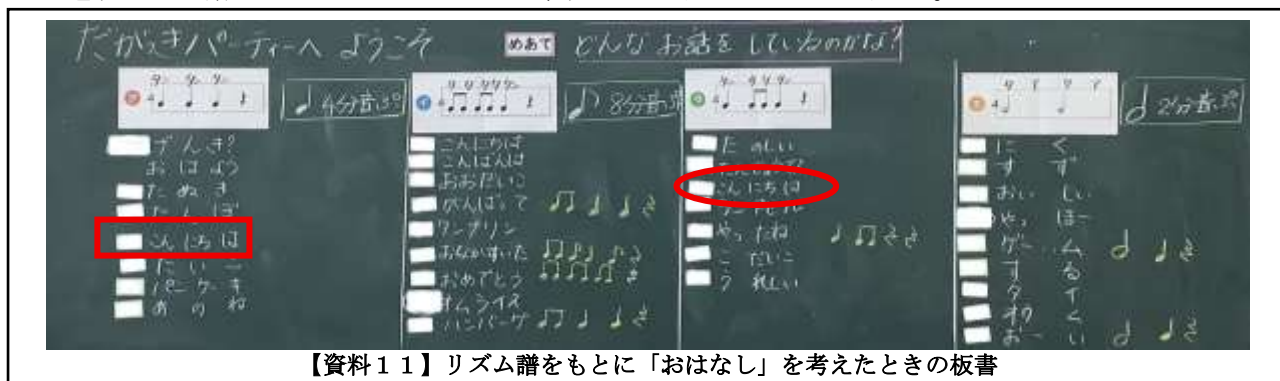
【資料9】「トライアングル」の音色の違いについての教師と児童の会話の様子

リンリンと音が のいい気持ちや たのしい気持ち になれたから えらびました。
--

【資料10】児童Aのワークシート

(2) どんなお話をしているか考えよう(手立てオ)

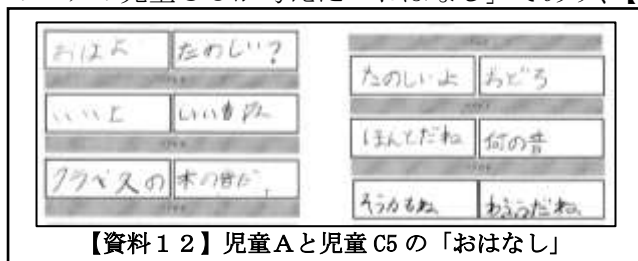
お気に入りの楽器を見つけたところで、児童たちから「早く楽器たちとお話をしたい」という声が上がった。そこで、第3時では教材「がっきでおはなし」のリズム譜をもとに、楽器たちがパーティーでどんなお話をしているかを考える時間を設けた。【資料11】はこのときの板書である。はじめに教師が⑦のリズムを打ち、「なんと言っているように聴こえるか」問うと、児童は『元気?』って聴こえる』『おはよう』だと思ふよ』など答えた。そこで、3、4人のグループに分かれ、その他のリズム譜についても、同様に考える時間を設けた。多くの児童はひらがな一文字に対し、一つの音を当てはめて考えていたが、資料中の四角の部分のように4分音符3つに対して「こん・にち・は」と当てはめたり、丸の部分のように「こん・に・ち・は」と当てはめたりした児童もいた。これらの姿から、ただ一文字ごとに当てはめるのではなく、言葉のリズムを生かして考えていることが分かる。また、同じ言葉でも違うリズム譜に当てはめられることに、児童が気付いたことが伺える。



3 仮説3に対応して

(1) ペアやグループで「おはなし」をつくろう(手立てカ)

見つけた音やリズム譜から考えたお話をもとに、ペアやグループで「おはなし」(呼びかけとこたえによる楽器での会話)を考える活動を行った。また、そのとき、楽器の種類による音色の違いを楽しむことができるように、別の楽器を選んだ児童同士をペアやグループにした。【資料12】は児童Aとそのペアの児童C5が考えた「おはなし」であり、【資料13】は作成された楽譜である。



練習が進んできたところで、友達の奏法のよさを見つけ、自身の演奏に生かすために、同じ楽器を選んでいる児童のペアやグループを組み合わせ、新たに4、5人のグループとして、互いに聴き合う場を設けた。【資料14】はグループ活動後、「真似したい方法はあったか」を尋ねたときの教師と児童の会話の様子である。児童Aが資料中下線部「C6さんのはてなマークのつく言葉は、聞いている感じに聴こえました」と発言したことで、「おはなし」の中に出てきた単語の途中で奏法を変えることの面白さに学級全体が気付いた。その後の練習タイムでも自身の演奏に取り入れる姿があり、授業を終えた児童Aの振り返りには、「児童C6さんのはてなマークのつくこと(ところの意)をまねしてみたよ」と記述があった(【資料15】)。これらのことから、同じ楽器を選んだ児童同士をグループにし、互いの奏法を見合ったり、互いの演奏を聴き合ったりしたことは、よりよい演奏の仕方を考えるのに有効であったと考えられる。

A : C6さんのはてなマークのつく言葉は、聞いている感じに聴こえました。

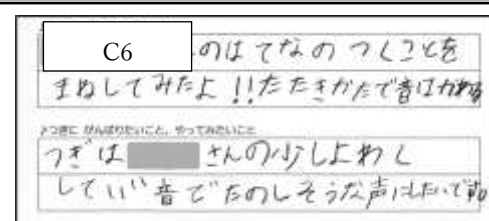
T : おお。どうやってやった?

(3回上下にすずを振り、最後だけすずを持っている手を持っていない手で打つ児童C6)

T : どうやってた? はてなのところは?

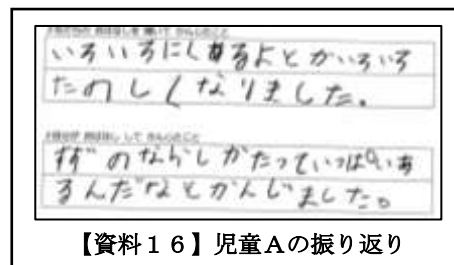
(児童C6の動きを真似する児童たち)

【資料14】真似したい奏法についての教師と児童の会話の様子



(2) 「2の4だがつきパーティー」を開こう(手立てキ)

題材のまとめに、つくった「おはなし」を実際に披露し合う場として、「2の4だがつきパーティー」を設定した。この演奏会では、ペアやグループごとに2回演奏を披露し、友達と互いの演奏を聴き合った。1度目は「おはなし」の内容を伝えずに演奏し、2度目は考えた「おはなし」を声に出しながら演奏した。児童Aは、「すず」を振ったり、「すず」を持っている手をもう片方の手で打ったりして、これまでの学習で見つけた奏法を取り入れながら演奏していた。また、途中、「すず」を指先ではじいて演奏する姿もあった。これらの様子から、同じ楽器を用いていても、奏法を変えることで音色に変化をもたせ、思いや意図をもって、さまざまな音色を楽しみながら音楽づくりをしたことが分かる。また、題材を終えた児童Aの振り返り(【資料16】)には、「すずのならしかたっていっぱいあるんだなとかんじました」と書かれており、このことから児童Aがいろいろな奏法を工夫し、音楽づくりに取り組んだことが分かる。



【資料16】児童Aの振り返り

IV 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

上述の実践から、児童Aは鑑賞活動を通して打楽器に興味・関心をもち、音探しやペアでの活動を通して思いや意図をもって音楽づくりをすることができた。特に、仮説3ではペアやグループでの活動を通して、児童C6の奏法を自身の演奏に取り入れたり、新しい奏法を見つけ出したりするなど、こだわりをもって音楽づくりをすることができた。

また、学級全体においては、第2時の音探しをしたあとのワークシートに「タンブリンは真ん中も叩けるし、横のシャリシャリも使えて楽しいから選びました」「ウッドブロックはいろいろな叩き方ができるし、キッコカッコという音が好きだからです」など、音色をもとに楽器を選んでいることが分かる記述が34人中27人に見られた。これは楽器を自由に手に取り、実際に体験する場を設定したことによる成果だと考えられる。

このような姿が見られたことは本研究の成果だといえる。これらにより、今回行った手立てについて、有効であったと考える。

(2) 今後の課題と改善案

【課題1】鑑賞活動で見つけた音色を音探しのヒントにしたり、音探しで見つけた奏法を自身の音楽づくりに生かしたりすることへ意識を向ける教師の出が不十分であった。

改善案 掲示を活用し、意図的に声をかける

第2時のあと、ペア・グループでの音楽づくりの際、奏法を工夫するヒントになればと、児童が見つけた音を模造紙にまとめ、音楽室の背面に掲示していた(【資料17】)。しかし、音楽づくりの場面で、児童に参考にするよう声をかけることが不十分であった。

「この音、どうやって出したっけ？」などの声かけを、意図的に行うことができれば、より前時までの学習を生かした音楽づくりができただろう。また、音探しの場面でも同様に、鑑賞活動で見つけた音色を模造紙にまとめ、それをもとに音を探す活動を行えば、より多様な音色・奏法を見つけることにつながっただろう。



【資料17】第2時で見つけた音をまとめた掲示

【課題2】音楽づくりの際、前回どのようにつくったか忘れてしまうペアやグループがあった。

改善案 毎時間、タブレット端末の録画機能で記録を残す

今回の実践では、ペアやグループで音楽づくりをしている際に、前回どのような奏法・音色で演奏していたか、忘れてしまう児童がいた。毎時間、授業の終わりにペア・グループごとに、タブレット端末の録画機能を用いて記録をすることで、前時を振り返り、改善することができたと考えられる。特に打楽器は、どのように演奏していたかが視覚的にも捉えやすいため、より有効であっただろう。

これらを生かして、今後も、児童が学ぶ楽しさを実感できるような授業づくりに励み、教師として児童を支援していきたい。